

令和3年度第1回総合教育会議 概要

日時 令和3年10月22日(金)

午後3時～午後4時30分

場所 本庁舎会議室302・303

1 出席者

夏野市長

金谷教育長、眞岸委員、宮原委員、村上委員、野上委員
(事務局)

企画管理部 小塚部長、杉本次長

政策推進課 盛光課長、米屋係長、篠原主査、竹口主任

教育委員会事務局 原事務局長、杉高次長

学校教育課 中川課長、安元課長補佐、小谷内副主幹、高井係長

生涯学習・スポーツ課 久々江課長、北村班長、鳥本係長、荒木主査

2 議題

(1) 休日の部活動の段階的な地域移行について

(委員) 部活動の地域移行については、学校の働き方改革だけでなく、多様な価値観を持つ大人と接することで人としての成長が期待できる、専門性の高い指導が受けられる、活動の選択肢が増える可能性があるなど、生徒のメリットも大きく必要なものだと思う。このメリットを広くPRすることにより、保護者や地域の理解、協力が得られるのではないかと。一方で課題も山積していると思う。特に懸念することが2点あり、1点目は、担い手となる人材の確保である。安全を見守るボランティア的な活動や専門性の高い技術指導などをしていただける人材を確保する仕組みを構築していかなければいけない。2点目は、保護者の負担の増加である。指導者の謝礼や活動場所の使用料などの費用負担が受益者である保護者にかかってくるのではないかと。また、合同部活動やスポーツクラブへの参加となると送迎が必要になる。このことが家庭の事情や収入の格差といったことで生徒がやりたいと思っているスポーツや文化活動を諦めなければならないということに陥ると、これは本末転倒だと思う。夢や希望を抱いている生徒がやりたいことに安心して取り組めるように、行政としても色々工夫をして支援をお願いしたい。

(市長) 人材の確保については、現状それぞれの競技における外部コーチは、各競技団体で要請した方や、地域の中で協力をしてもらう方もあり、立場もまちまちではないかと思う。そういった外部へ委託をするに当たり、部活指導員の方などには謝礼や報酬が支払われており、今後国や県に対し、経費や財源などについて示すよう話をしていく必要がある。人材の確保については、協力いただける方を育てていか

なくてはならない。保護者の負担についても、拠点体育館への送迎や使用料の取扱いなど、十分に検討していく必要がある。

(委員) 人材の確保については、総合型地域スポーツクラブや体育協会、地域文化サークルなど、地域には協力して下さる方や専門性を有している方が必ずいると思う。今の部活動に関連して、75%の先生方は自分が希望した部活動で活躍しているが、今後指導者の専門性や有資格化ということで資格を持っていないと指導や引率ができなくなる可能性があることが懸念される。また、平日の学校での日常的な部活動における活動内容・指導内容と、休日のスポーツクラブや体育協会、文化クラブなどにおける専門的な活動内容・指導内容との違いにより生徒の向上心への影響の維持などが懸念され、両者間の共通理解や分担、調整が当初は特に必要になってくることから、調整を担う組織や部署を設けるなど、しっかりと連携が取れるような体制を整え、工夫していくことも必要ではないか。

(市長) 指導者の有資格化については、すでに各競技団体で検討が進められていると思っている。地域で担っていただくためには資格を有する方の育成や競技団体との連携など、調整を図る部署が必要になるが、既存の団体だと体育協会などが考えられる。体育協会は、これまでスポーツ振興という役割を担ってきているが、調整の役割ができるのか今後、課題等を整理していく必要があると思う。

(委員) 有資格者の指導者は、情熱を持っている方が多いと思う。生徒たちは、皆が超一流のアスリートになりたいと思って部活動をやっているわけではなく、集団の中で楽しく思春期の心と体の成長をしていく過程にあり、指導者の考え方の方向性が違ったりすると戸惑うことも考えられることから、心のケアや相談窓口のほか、アスリート志向の生徒のためのスポーツドクター的な窓口が必要である。また、休日に地域住民として指導に当たる先生に対する処遇についても検討が必要である。また、これまでは学校での部活動であったため家庭との連絡窓口は学校が担ってきたが、それに代わる組織づくりや保護者と指導者との連絡体制をどうするのが課題である。

(市長) 従来の学校の部活動では、指導しているのが学校の教師であり、学校生活の中での活動も含めて一体的なケアやサポート、必要なアドバイスができていた。今後外部での活動となると、それをどうやって行っていくのが課題であると思う。また、指導者の生徒への関わりや対応の難しさもあり、今回の地域への段階的な移行において、スムーズに移行していくための事前の色々な検討や、調整する部署の存在が大事になる。新しい部署をつくるのはなかなか大変だが、生徒たちにとってより良い活動を行える体制をどう作っていくのかを念頭に置いて検討していく。

(委員) 私は、サッカーのスポーツ少年団に 10 数年携わっているが、サッカー部は人数も多く全部の中学校にあると思う。そこに地域の方が教えに行くとなると、指導者の人数を確保できるのか心配がある。そこで、スポーツ少年団と連携して、例えば、小学生高学年と合同で練習することも可能だと思う。ただ、スポーツ少年団のコーチは、ボランティアということで謝礼を出していないので、中学生と一緒に活動する形になった場合には謝礼などがあつたら良いと思うので検討いただきたい。また、例えば、現在部活動にダンス部はないため、ダンスをしたくても違う部活動に入っている方がたくさんいると思う。将来的には部活動という名前にとらわれることなく、地域クラブやクラブチームで色々な競技が選択できるようになれば良いと思うので検討いただきたい。

(市長) スポーツ少年団の指導者との連携については、大きな可能性があると思っている。また、指導者への手当てについては、今の制度では部活動指導員の手当てがあるが、今後地域に移行していく中で検討していく余地がある。また、地域に移行することで学校の先生が指導できなくなるわけではない。休日の部活動については学校の先生としてではなく、兼業届を提出して部活動の指導員として参加するという考え方となるため、それに対する手当てが支給されることとなる。また、将来的に色々な地域クラブでの活動も認めていくということについては、これまでは学校の部活動に所属しながら地域クラブの活動にも行くというものであったが、例えば届出をすることによって学校の部活動に所属しなくても地域クラブに参加することを認めるなど、こういった機会にしっかり整理できれば良いと思う。また、地域移行の取組も踏まえて、各地域において各競技団体がバックアップするクラブチームを作る話など、各競技団体の中でも具体的な動きが出てきており、協議されているものと考えている。そういったことも含めて部活動の地域移行については、今後色々な協議を進めていく中で、課題を一つ一つクリアにしていきながら、部活を頑張りたいという人にとってより良い環境、また、楽しくやりたいという人にとっても満足できるような環境を作っていくことを実現しなければいけない。このことを念頭にしっかりと取組を進めていく必要がある。

(教育長) 委員の皆様からご意見をいただき、様々な課題があることを確認できた。学校の部活動は、異学年の人たちと交流しながら切磋琢磨して一生懸命に打ち込み、トラブルなども通しながら助け合いの気持ちなど様々なことを学ぶ機会でもあるということをしてきている。ただ、指導者の有資格化など指導者に求められるニーズが年々高まっており、教員にとっても負担が大きくなっている。その中で、この地域移行については、生徒たちにとってより良い環境を作るために地域の方々に入ってもらったことに加え、教員の働き方も考えていかなければいけない。この二つの課題を同時にクリアしていくために、休日の地域における活動と平日の学校での活動をどのようにして調整していくのか、また、部活動の指導にやりがいを感じ

じている教員が学校の部活動の地域指導者になるのか、自分の住んでいる地域の指導者になるのか悩ましいところもあるかと思う。今後部活動の在り方検討会を立ち上げて各種団体からご意見をいただき、生徒、保護者、教員にアンケート調査を行い進めていくことになる。その中で教員、生徒がウィンウィンとなるように、在り方検討会を通じて情報収集をしながら、まずはモデル校、モデル競技から進めていくことを考えている。少しずつでも生徒たちのやりたいことができる環境を整備するとともに教員の負担軽減を図っていきたいと考えているのでよろしくお願いしたい。

(市長) 今後の進め方としては、部活動の在り方検討会を立ち上げて、指導者の人材確保や処遇、受け皿となる団体との調整、生徒たちの意識に対するサポート体制、学校と指導者との調整などの諸課題についてしっかりと協議をし、モデル校などで試験的な取組をして課題も洗い出しながら、実際の地域移行の方向へ進んでいければと思っている。

(委員) 地域には隠れた人材があると思うので、在り方検討会の皆さんで情報収集しながら、人材バンクのような仕組みができれば良い。運動部にはたくさん指導者がいるが、文化部には指導者がいないということがないように工夫していただけるような組織を作っていけたら良いと思う。

(市長) 運動部だけでなく、文化部についてもしっかり検討していかななくてはならない。市内の6つの中学校の吹奏楽部は、県の色々なコンクールで全て上位の評価を受けたり、毎年のように全国のコンクールに出場したりするなど活躍している。今後地域の方や、今まで協力いただけなかったような方とも連携をするなど、更なるレベルアップを図れる体制が取ればなお良いと思う。

(市長) 本日は、大変貴重なご意見をいただき、感謝申し上げます。部活動は、生徒たちにとってはかけがえのない学生時代の大事な活動の一つになるので、その中で一生懸命に頑張る、また、楽しい思い出や仲間づくりなど、一人の人間として大きく成長できる機会となるように環境や体制構築に向けて取り組んでまいりたいので、今後ご指導、ご鞭撻をお願いいたします。